

すぐに役立つことは、すぐに役立たなくなる。
労力をかけて学んだことは、いつか必ず役に立つ。

橋本 武（元灘中学高校国語教師）

□ 高校生活で最も重要な中間考査を迎えます。

先週のLHRで評定平均の計算をしました。1年生の成績・2年生の成績はもう確定しています。ここから重要になるのは、3年生1学期の成績となります。1学期に実施される定期考査は、中間考査と期末考査の2回のみ。成績に関して、この2回の考査が持つ意味は、今までみなさんが受けてきた考査に比べて、大変大きなものになります。

□ 2学期は、進路の山場です。

公務員・民間就職・専門学校・短期大学、それに4年制大学と看護専門学校への公募制推薦。こういった進路が決定する時期が、2学期となります。そして、これらの進路先に提出される調査書に大きな影響をもたらすのが、今回の中間考査なのです。これほど具体的に進路に直結している考査は、3年生1学期の中間考査と期末考査だけです。

□ 本当の実力をつけるには、時間がかかります。

講習に継続的に参加して、受験に向けてしっかりと準備をしている人の姿が頼もしく感じられます。この中間考査を、今後継続して勉強する習慣を身につけるためのよい機会としてください。例えば、英語の長文問題が、理科や地歴公民で学んだ内容であったということも実際にあります。基礎的な知識の差が、英語や国語の読解に大きな影響を及ぼすのです。定期考査は普段できないこういった学習をするチャンスでもあるのです。

一般的に、勉強を始めてからその成果が現れるまでは、個人差はあり

ますが、半年ほどかかるといわれます。予備校の先生に話を聞くと、浪人1年目の受験生は、6月の模擬試験で志望校の判定がAやBとなる場合が多いそうです。それは、現役の時に勉強を始めた時期が遅かったからだろうとのことでした。もっと早くに勉強を始めていれば、その成果を得ることができて、その人たちも現役で合格することができたのかもしれない。

□みなさんは金剛高校で、どのような力を身につけましたか？

みなさんは、金剛高校に入学して今までの2年間で、計10回の定期考査を受けてきました。小学校、中学校を合わせると、本当にたくさんの試験を受けてきたことになると思います。そして高校生活最後の年が始まって、もう1ヶ月がたちました。この2年と1ヶ月の間、金剛高校生として、みなさんはどのような力を身につけてきたのでしょうか？ もちろん高校生活で身につける力は、学力だけではありません。私たちもみなさんのここまでの成長を強く感じています。しかし同時に、「高校で身につけるべき力」の中に、学力が含まれることはまちがいありません。そう考えた時、今の自分はどうかのかを、きちんとみなさん自身に問いかけてほしいのです。

□労力をかけて学んだことは、いつか必ず役に立つ。

労力をかけて学んだことは、必ず役に立ちます。一方で、すぐに役立つことは、すぐに役立たなくなります。例えば、一夜漬けで考査にのぞんだあと、何が残ったでしょう？ また、従来の携帯電話がスマートフォンに取って代わられつつあるように、今役立つことが将来もそのまま役立つとは限りません。高校の勉強は、これから社会に出て行く上での基礎となるものです。労力をかけて学んだことは、必ず役に立ちます。そう考えると、残された高校生活は、とても貴重な時間であるはずですが、焦る必要はありませんが、強い決意を持って取り組むことが必要です。中間考査に向けて、しっかりと準備をしておいてください。

学年目標：進路に向けて力をつくし、未来を切り拓く